

## 多面的機能支払交付金版SDGs ローカル指標と今後の展望

### Multifunctional Payment System SDGs Local Indicators and the Future Outlook

○ 市川 敬一郎\*, 植松 宏紀\*, 中藤 直孝\*\*, 中田 摂子\*\*\*

ICHIKAWA Keiichiro, UEMATSU Hiroki, NAKATO Naotaka, NAKATA Setsuko

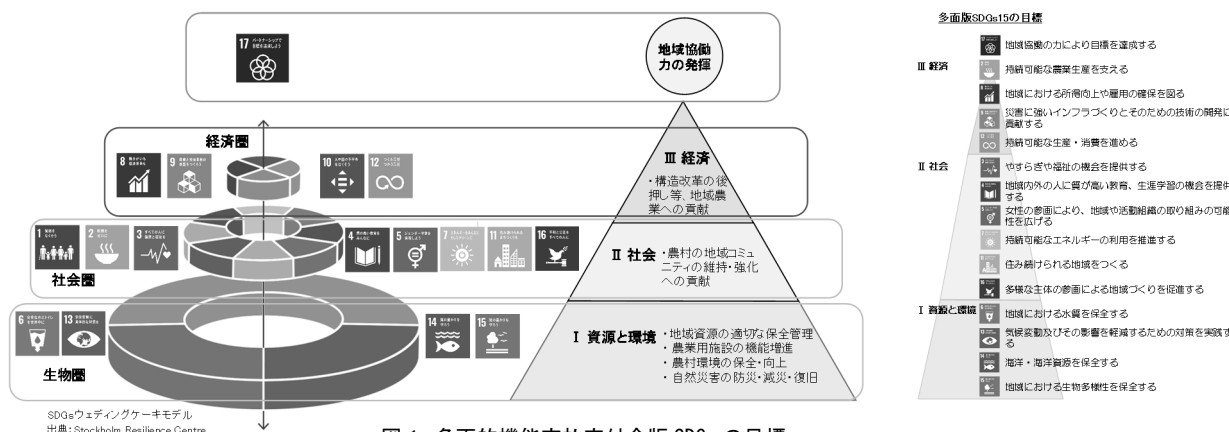
#### 1. はじめに

平成 27 年(2015 年)の国連サミットにおける持続可能な開発目標(以下、「SDGs」という。)の採択以降、SDGs への関心は世界的に高まっている。このような中、農業農村整備分野においても、令和 3 年 3 月に公表された新たな土地改良長期計画において、自然資本や環境に立脚した食料・農業・農村分野は、他産業に率先して SDGs の実現に貢献することが求められている旨記載されるなど、SDGs への関心が高まっている。本報告では、SDGs 達成への貢献という視点から多面的機能支払交付金(以下、「本交付金」という。)の評価を行うシステムを検討したことを報告するとともに、活用方法や今後の展望について紹介する。

#### 2. 本交付金活動と SDGs の関係性

SDGs は、持続可能な世界を目指す国際目標である。一方、本交付金は、農用地、水路、農道等の地域資源の保全管理に資する各種の取組が地域住民による共同活動により営まれることにより、良好な地域社会の維持及び形成に重要な役割を果たすものである。これらは、持続可能な社会を目指す点において共通しており、親和性が高いものと考えられる。

また、SDGs 全 17 目標の相互の関係性を示すウェディングケーキモデルは、目標 17(パートナーシップで目標を達成しよう)を頂点として、「生物圏」、「社会圏」、「経済圏」の 3 つの階層で構成されている(図 1 左)。一方、本交付金では、「I. 資源と環境」は、地域資源の適切な保全管理や農村環境の保全・向上等の活動を通じて「II. 社会」にある農村の地域コミュニティを維持・強化し、「III. 経済」は、「I. 資源と環境」及び「II. 社会」を土台として成り立ち、これらの総体として、本交付金による地域協働力の発揮を位置付けて評価を行うことを検討し



\* (一財)日本水士総合研究所 The Japanese Institute of Irrigation and Drainage, JIID

\*\* 農林水産省 Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

\*\*\* NTC コンサルタンツ株式会社 NTC Consultants Inc.

キーワード: 多面的機能支払交付金, SDGs, 持続可能な地域づくり, 施策評価



ている。両者の構成は類似しており、SDGs 達成への貢献という視点から本交付金による取組や効果を見直し、SDGs の 15 目標（全 17 目標）に対応した本交付金の目標を整理した（図 1）。

### 3. 多面版 SDGs ローカル指標の検討

#### (1) 目的

SDGs の目標・ターゲットの達成に貢献する本交付金の活動内容と指標を「多面版 SDGs ローカル指標」として整理した（表 1）。これにより、誰でも簡易に SDGs への貢献度を把握でき、農村地域における小さな活動が、世界が目指す SDGs と繋がることを確認できるようになる。また、本交付金の対象組織は「新しい公共」の担い手であり、SDGs と本交付金の活動を関連付けることで、その担い手としての位置付けを明確化するとともに、資源保全にとどまらず、持続可能な地域づくりに向けた目標設定や組織のあり方の検討を促進することが期待できる。

表 1 多面版 SDGs ローカル指標（一部抜粋）

I. 資源と環境		本交付金の目標
目標	ターゲット(達成目標)	指標
 13 気候変動に具体的な対策を 気候変動及びその影響を軽減する ための対策を実施する	【13.1】気候に関する災害や、自然災害が起きたときに、対応し たり立ち直ったりできるような力をすべての国でそなえる。	災害に対する強靭性、対応力を強化する。 ◆農地維持支払に取り組む組織数(様式2-4)◆農地維持に取り組む組織では異常気象時の対応を実施 ◆水田貯留機能増進に取り組む組織数(様式2-4) ◆灌漑活動(地域住民による直営施工)に取り組む組織数(様式2-4)
	【13.3】気候変動が速まるスピードをゆるめたり、気候変動の 影響に備えたり、影響を減らしたり、早くから警戒するための 教育や啓発を、より良いものにし、人や組織の能力を高める。	災害時における応急体制の整備、水田やため池の雨水貯留機能の活用などによる防災・減災のための啓発・普及を図る。 ◆灌漑活動(防災・減災力の強化)に取り組む組織数(様式2-4) ◆地域住民等との交流活動を実施している(地域における水田を利用した水田貯留機能増進・地下水 かん養を推進していくために下流域と上流域との間の情報交換会の実施等)により、連携を図ってい る組織数(様式2-4)
 15 陸の豊かさも保 地域における生物多様性を 保全する	【15.1】自然の生息地がわたりを抑え、生物の多様性が 損なわれないようし、2020年までに絶滅が心配されている 生物を保護し、絶滅を防ぐため、緊急に対策をとる。	生物多様性保全のための取組を行う。 ◆生態系保全に取り組む組織数(様式2-4) ※「生物の生息状況の把握」、「外来種の駆除」、「その他」のいずれかに取り組む組織数
	【15.6】移動中に定着する外来種の侵入を防ぐとともに、外来 種が陸や海の生態系に与える影響を大きく減らすための対 策を始める。特に優先度の高い外来種は駆除する。	外来種の侵入を防止するとともに、外来種を駆除する取組を行う。 ◆生態系保全(外来種の駆除)に取り組む組織数(様式2-4)

出典：国連広報センター及び日本ユニセフ協会HP掲載資料を基に加筆・修正して作成

#### (2) 活用方法

多面版 SDGs ローカル指標を用いれば、SDGs の達成に向けた取組内容を具体的に示すことができ、かつ、達成状況のモニタリングが可能となるため、都道府県や市町村にとっては、地域の実情に応じた目標設定や達成度の把握が簡易的にできるようになるとともに、本交付金の対象組織にとっても、SDGs と繋がることで活動意義を再確認できるなど、行政と対象組織の両方において多面版 SDGs ローカル指標の活用が期待される。また、今回整理した多面版 SDGs15 の目標については、行政と対象組織等が役割分担しながら、対象組織が地域にあった目標に主体的に取り組むものである。一例ではあるが、SDGs の達成へ貢献するものとして水田貯留機能増進活動（田んぼダム）や生態系保全活動（生き物調査等）などに取り組むことは、防災・減災力の強化や生態系保全活動への多様な主体の参画等への理解を地域住民から得やすくなるなど、地域住民による持続可能な地域づくりの推進を後押しできるのではないかと考えている。

### 4. 今後の展望

今回、多面版 SDGs ローカル指標の検討について紹介した。SDGs は様々な分野で取組が進んでおり、今後は、多面版に限らず、土地改良事業の各分野において SDGs の達成に向けて水管理版や国土強靭化版等の SDGs ローカル指標を検討して活用することにより、SDGs 達成への取組や SDGs の理念を踏まえた持続可能な地域づくりを推進していくことが期待される。

【引用・参考文献】 令和 2 年度多面的機能支払交付金の効果の評価に関する資料作成等業務報告書（農林水産省農村振興局）